

国土交通大臣賞（優秀賞）

かわのかお

群馬県

群馬大学教育学部附属中学校

三年

小川

知映

「おっ！」

今日の川は一段ときれいな。澄んだ雪解け水に真つ青な空が映って、違和感を覚えるほどきれいに染まっている。近くの堤防の辺りには一面の菜の花、そして桜並木。

私は、自転車通学のために毎日渡る南部大橋で、素敵な“かわのかお”を見た。その川とは、流域面積日本一を誇る、利根川だ。

川は、季節やわずかな天候の違いで様子が変わる。

夏の晴れた日は、川面に強い日差しが照りつけ、キラキラとまぶしい。音を立てて流れる川に、思わず飛び込みたい衝動に駆られる。さすがに怖いので、入ったことは一度もない。

台風や大雨の後には、空は晴れているのに川は不機嫌そうな表情になる。濁った水が、折れた枝や人工物を乗せてごうごうと流れる。たくさんの石が転がっている川岸をも飲み込んでしまうので、それを見た私の機嫌もちよつとだけ悪くなる。

冬は、利根川の流れに沿うようからっ風が吹きつけ、私はとにかく寒い。そして川も寒そうに波を立てているが、私の気力のように凍り付くことは決して無く、渾々と流れるがまん強さ。尊敬の意を向けたくなる。

このように、利根川は私に、癒やしやたくさんの思考を与えてくれる。自転車で橋を渡るのは往復ほんの二分、それもまだまだ二年間だが、いろいろな“かわ”を見られるのは実におもしろい。

そんな利根川は、自然と共存する難しさについても考えさせてくれる。母に聞いた話によると、今から二十年ほど前、大雨による洪水があったらしい。利根川の河川敷にあった県庁の駐車場などは全て泥水に飲み込まれ、県職員さんのほとんどの自動車が流れてしまったのだという。利根川は大昔から流れる場所が変化しているようで、前橋の市街地の

辺りがかつて流れていたこともある。今、流れている場所と結構離れた場所を流れていたことを知り、自然の力の強大さに驚き、怖くなった。何十、何百年に一度かくらいの、川の“怖いかお”。

川は人間の生活についても考えさせてくれる。朝起きてきれいな水で顔を洗えるのは、利根川のおかげだ。

小学生の頃に浄水場の見学に行き、この辺りの水道水は利根川の水をきれいに使い、再び浄化して川に戻していると教えて頂いた。

人類が文明を拓いたのも川のほとりだ。飲料水として、調理の為の水として、衣類や身体を洗う水として……。現在にも同じことが言える。水道設備が整ったので住居はあちこちに建てられるが、人間が生活するには水が不可欠だという事は、この先も変わらない。

よく考えると、川の河川敷の菜の花、桜、川面を跳ねる鳥たちなど、人だけではなく全ての生きものの生命の源なのだ。水”に感謝と敬意を、改めて示したい。特に利根川は、流域に住む私たちの街・平野の母のようだと思う。

“かわのかお”。それは人間の心に癒やしや思考を与えてくれる、非常に豊かなかわ。

それは時に荒れ狂い自然と共存する難しさと大切さを教えてくれる、実は優しいかわ。

それは生きものたちが生きていくのを支え、毎日毎日、愛情を注いでくれる母のかわ。

ふるさとの利根川、そして地球上の水を守るため、これからは水の使い方をよく考えながら生活していきたい。また、愛する利根川の“かわのかお”を、もっと見つけたい。